▼支持会員のご案内

名取事務所では支持会員を募集しております。
活動にご賛同、サポートしていただける方の
ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

入会金	5,000 円
年会費 一般会員	4,000 円
年会費 シニア会員 (70 歳以上) 障がい者会員	3,000 円

▼会員特典

今年度限定特典 『東京ブギウギと鈴木大拙』ご招待

- 全公演ご観劇料 約３割引
- 公演チケット最速予約

◆「四番目の人」　◆「赤瓦の家の女（仮）」
◆「占領の囚人たち Part2」

一般前売	~~5,000 円~~	→ 支持会員	3,500 円
シニア割引 (70 歳以上) 障がい者割引	~~4,000 円~~	→ 支持会員	3,000 円

◆「追熟しない果実」

一般前売	~~5,500 円~~	→ 支持会員	4,000 円
シニア割引 (70 歳以上) 障がい者割引	~~4,500 円~~	→ 支持会員	3,500 円

▼お申し込み方法

支持会員をご希望の方は電話・FAX・メール
にてご連絡ください。
ご入金確認後、支持会員証を送付いたします。
チケットをお申し込みの際は、お名前・会員
番号をお知らせください。

名取事務所
TEL&FAX：03-3428-8355 ｜ MAIL：natoticket@thntr.net

名取事務所
2026 年度支持会員ご案内

— Theatre Office Natori Supporters —

名取事務所
Theatre Office Natori
〒154-0015　東京都世田谷区桜新町 1-15-1 チェリーハイム 201
https://www.nato.jp

撮影：坂内太

▼ 名取事務所公演　2026　年度ラインナップ

翻訳初演　現代韓国演劇上演
「四番目の人」

作 イ・ボラム　演出 生田みゆき
翻訳・ドラマトゥルク 沈池娟（シム・ヂヨン）
出演 赤松怜音、鬼頭典子、石井英明、小泉将臣、西山聖了
日程 2026 年 6 月 19 日（金）～ 28 日（日）
劇場 下北沢「劇」小劇場　12 回公演予定

2018 年にスタートした現代韓国演劇シリーズは第 8 作目を迎え、韓国演劇専門劇団と称しても差し支えない程に定着しました。今作は本邦初演であり東京バージョンに改編、韓国との国際交流を深化させ、国際共同制作を実施、脚本・美術・衣装・チラシデザインは韓国側のスタッフが担います。
今回の作家、イ・ボラムは評価の高い「少年 B が住む家」「女は泣かない」に次ぐ 3 作目で韓国演劇界では社会派の劇作家として第一線で活躍しております。
今回は冤罪がテーマです。イ・ボラムは絶えず新しい設定、新しい視点を提供します。最近韓国の警察や検察では事件を早期に終結したいがために、社会的弱者に嫌疑をかける傾向があることが明らかになっています。
この作品は再審により無罪判決を受けた実際の事件を基にしており、10 代の娘の成長物語としてスタート、物語の最後は大人へ向ける問いかけとなります。

再演
「東京ブギウギと鈴木大拙」

作 堤春恵　演出 扇田拓也
出演 鷲巣照織、新井純、西山聖了、森尾舞、吉野悠我
日程 2026 年 8 月 26 日（水）～ 30 日（日）
劇場 本多劇場　6 回公演予定

こちらの公演は支持会員の皆様はご招待とさせていただきます。

東京ブキウギは、1947 年笠置シヅ子の歌でヒットした戦後日本を象徴する曲で、作曲服部良一・作詞鈴木勝ですが、鈴木勝が仏教学者・鈴木大拙の養子アランである事はあまり知られておりません。
東西文化の落差を乗り越えて世界の禅者と呼ばれた大拙にとって、より困難な文化の落差はむしろ家庭内にありました。酒と女に身を持ち崩し、無視され続けた養子アランは大拙が禅を世界に伝える隠れた原動力だったのではないか？
正に多様性を問われる世界の縮図が、鈴木大拙の家庭内にありました。大拙の家庭内トラブルは多様性への問いでもあり、解決の指標とも言えます。
脚本に堤春恵、演出に気鋭の扇田拓也を迎え、2021年 3月に上演、好評を博した舞台を再演いたします。

新作書下ろし
「追熟しない果実」

作 横山拓也　演出 西本由香
出演 竹下景子、松本紀保、西尾友樹、枝元萌、八頭司悠友、森尾舞、西山聖了
日程 2026 年 10 月 2 日（金）～ 11 日（日）
劇場 吉祥寺シアター　11 回公演予定

横山拓也の新作書下ろし作品です。
昨年のピンク地底人 3 号「燃える花嫁」に続く「多文化共生」をテーマにした書下ろし作品です。前回同様こちらがテーマを委嘱しました。若者層に支持を受けている、横山拓也氏の声高ではなく家族を通したメッセージで幅広い観客層に届けたい。当該事務所の傾向とは違う作家の上演は事務所の活性化を促し、刺激をもたらします。
また従来の俳優陣ではなく竹下景子・枝元萌・松本紀保の起用を致しました。演出は最近活躍目覚ましい西本由香が担い、実力派の西尾友樹、森尾舞が脇を固めます。
多文化共生は喫緊の課題です。一時ファッション化された体を成していた「多文化共生」ですが、ここにきて排外主義を強く支持する政党が票を伸ばし、危うい情勢となっております。継続的に同テーマを上演する事で問題提起を促し、自分事として捉え、問題解決に少しでも寄与するために本作を企画しました。

新作書下ろし　エーシーオー沖縄共同制作・現代韓国演劇上演
「赤瓦の家の女（仮）」

作 キム・ミンジョン　演出 藤井ごう

出演 山口眞司、城間やよい、鬼頭典子、宮城はるの、今井優香里　他
日程 2026 年 12 月 2 日（水）～ 9 日（水）
劇場 下北沢　ザ・スズナリ　10 回公演予定

現代韓国演劇シリーズ第 9 作目の作品でキム・ミンジョン書下ろし 4 作目です。上演シリーズは 2018 年「渇愛」からスタートし、交流は 10 年間に渡ります。当初は気鋭の作家という評価でしたが、今や韓国演劇界を牽引する代表的な作家となり、信頼関係の醸成により 2 年に 1 本の書下ろしが定着、当該事務所にとって重要な作家となりました。
沖縄と韓国には通底するものがあります。米軍基地問題、植民地主義的な支配差別等、また多くの韓国人が沖縄戦に動員されました。本作は韓国から見た沖縄を通して日本の姿を考察し、両国の現在地を探る試みです。
沖縄を考える事は日本を考える事だとの思いから、エーシーオー沖縄と共同制作を継続し、沖縄・東京との公演を以て、日本社会の在り方をも問います。

新作書下ろし　パレスチナ演劇上演
「占領の囚人たち」Part2

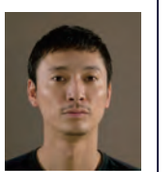
作 エイナット・ヴァイツマン　演出 生田みゆき
翻訳・ドラマトゥルク 渡辺真帆
出演 ラーミー・サルマーン、石村みか、森尾舞、西山聖了　他
日程 2027 年 3 月 5 日（金）～ 14 日（日）
劇場 下北沢「劇」小劇場　14 回公演予定

パレスチナ演劇上演シリーズの第 3 作目。
本作は 2023 年 2 月に上演された高評価のドキュメンタリー演劇「占領の囚人たち」に続く Part2 である。
現在の状況にアップデートを図ることが企画の一つでもあり、前回同様パレスチナ人俳優を迎える。
イスラエル占領下のパレスチナでは「逮捕されたことがない人が一人もいない家はない」と言われるほど、囚人の問題は日常的かつ深刻なものであるが、彼らが収監されてからの実情はほとんど表に出てこない。本作品は半世紀以上続くイスラエル占領の不条理やパレスチナ人への人権侵害を、イスラエル人さえほとんど知らない「囚人」の実態を通して可視化し、つまびらかにしようとする試みだ。
「占領の囚人たち」上演後、2023 年 10 月 7 日 、ガザでハマス主導のパレスチナ人戦闘員による越境奇襲攻撃が行われ、俄然本作が注目を浴びた。ハマスの越境奇襲攻撃、この問題の根本はいったい何なのか？現在服役中または釈放されたパレスチナ政治囚やガザから逃避した人達への取材から真実に迫る。主流のメディアはこの奇襲問題のごく限られた部分を報じているが、歴史的文脈は報じず、「暴力の連鎖」「憎しみの連鎖」といった言葉で片付けている。報じられていることではなく、そこに報じられていないことは何なのかを追求したい。本作は厳しく残酷な現実の告発であるとともに、極限状態での人間の忍耐と連帯の記録でもある。

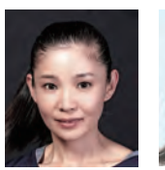
▼名取事務所 所属俳優

鷲巣照織

吉野悠我

松本光史

西山聖了

森尾 舞

小林亜紀子

森永明日夏

今井優香里

出演のご依頼は名取事務所までご連絡ください。